

柳井市教育委員会会議 会議録

1 会議の開催

(1) 日 時 令和7年11月5日(水) 開会 午後1時30分

閉会 午後 2 時 1 5 分

(2) 場 所 サンビームやない視聴覚室

2 出席委員

教育長

教育委員

教育委員

教育委員

教育委員

西元 良治

厚坊 俊己

瀬山真紀子

綿貫 良子

西岡 琴美

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

教育部長

教育総務課 課長

学校教育課 課長

生涯学習・スポーツ推進課 課長

文化財室 室長

柳井図書館・大畠図書館 館長

学校給食センター 所長

教育総務課 課長補佐（書記）

室田 和範

檜垣 彰宏

大田 恵也

西本 龍

大岡 弘明

小柳 五寛

西本 佳孝

古谷 洋美

5 傍聴者

なし

6 会議日程

(1) 議案

①議案第２２号 教育委員会事務の点検及び評価について

②議案第 23 号 令和 8 年度柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申方針
について

(2) その他

7 議事の大要

(1) 開会

教育長から、教育委員会会議の開会の宣言があった。

(午後1時30分開会)

(2) 會議錄署名委員指名

教育長から、会議規則第13条の規定に基づき、綿貫委員、西岡委員の

両名を指名した。

(3) 議事内容

①議案第22号 教育委員会事務の点検及び評価について

教育長は事務局に説明を求め、檜垣課長から以下の説明があった。

法令に基づき、教育委員会の事務事業について、9月25日に開催した学識経験者による外部評価会議を経た内容の審議をお願いするもので、要点を説明する。

令和6年度当初に掲げた数値目標となる計31個の成果指標について、A、B、C、D、4つの段階で評価し、Aが61.3%となり、6割以上は「目的を達成できた」となり、昨年度と比較すると、6.5ポイントの増加となった。全体として、「Aが2つ増加、Bが2つ減少、Cが1つ増加、Dが1つ減少」となった。成果指標に変化があった項目について説明する。

人権教育研修会の開催件数が、BからAとなった。学校・企業・保護者及び市民を対象とした人権講座を開催し、子どもや高齢者問題をテーマとした講座をはじめ、人権課題に関する講義を行った。今後も身近な地域の課題や関心をとらえつつ、幅広い人権課題をテーマに講座を開催していく。

図書館関連会議の開催件数が、BからAとなった。同会議は、主に学校と市立図書館職員間の意思疎通と連携、課題協議や情報共有を図ることを目的としている。今後も、児童生徒にとって、より有意義な施設となるようこれまで以上に学校とも積極的に連携を図っていききたい。

各学校の地域コーディネーターとの協議回数が、AからBとなった。スクール・コミュニティセンターで、各学校の地域コーディネーターが、活動状況報告や意見交換などを行い、コーディネーター同士の交流や資質の向上を図っている。今後も協議の質が高まるように努めていきたい。

新体力テスト等のデータによる柔軟性が、DからCとなった。新体力テストの柔軟性の向上が見られるが、市全体としては男女ともに国の平均を少し下回っている状況である。引き続き、児童生徒の体力向上や運動習慣の改善を図っていききたい。

克己堂の回数が、BからAとなった。

克己堂とは、各学校において、より授業力向上に資する人材を育てるため、多様な視点を求めて公開授業を行う本市独自の研修形態で、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目的に、子どもたちの学びの振り返りを共通の視点として協議することで意識の向上を図っていききたい。

学識経験者からは、「教育は数値だけで評価されるものではなく、「意図」ではないかと考えており、本来の教育的な「意図」を大事にしてほしい。」、また、「全体的な取組として、評価に値すると感じている。」、そして、「放課後子ども教室への高校生の参加が増えてきており、10年間のスクール・コミュニティの取組の成果が表れているように感じる。数値には表れにくい質的向上が図られている。」など、多くの意見があっ

た。

最後に、今後の取組に向けて、令和6年度は、「愛、夢、志をはぐくむ教育～スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進～」を教育目標とした、第2期4年間の中でも、A評価が最も高い値となり、数値的には取組の成果が認められたものとなった。一方で、学識経験者からは、教育は数値だけで評価されるものではなく、本来の教育的な「意図」を大事にしてほしい、との意見もあった。

令和7年度は、第2期柳井市教育振興基本計画の最終年度となることから引き続き、本市独自のスクール・コミュニティの取組やGIGAスクール構想等を的確に進めていくとともに、併せて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた取組への一定の成果をまとめ、次につなげていく。

主な質疑応答は以下のとおり。

厚坊委員：何を評価するかだと思う。人権教育研修会の開催件数が、Aとなっている。評価会議委員の方も言われているが、回数ではなく中身の問題である。研修会をすることによってどれだけ人権意識が高まり、どう行動に移っていくかだ。学校に成果を出してもらおう中で、やりすぎると教員の負担が出てくる。日頃の活動の中でいかに質の高いものでやっていくかであり、回数が増えたからと満足し、回数が少ないのもっとやれというのではない。そこを考えながら、取り組んでもらいたい。

瀬山委員：みどりが丘図書館の本を学校に貸し出していることは、学校を訪問した時に目にすることがあるが、その他に子どもたちと図書館の関わりが訪問する以外に何かあるのか。

小柳館長：学校司書に年3回図書館に来てもらい、展示の方法、学校に貸し出しをする本や、図書館で購入する児童書の選奨をしている。学校から見学の依頼があった時には、図書館の使い方、マナーについて説明した。今後も、学校図書館と図書館の連携を協議していきたい。

瀬山委員：小学生の図書館のマナーはどうか。

小柳館長：去年は、子どもたちがはしゃぐシーンも見受けられたが、先生方に指導していただき、今年の夏休みは、昨年と比べると落ち着いて過ごしていた。子どもたちも図書館の使い方が分かってきたと感じている。

綿貫委員：大畠の夢プランに中学生が参加し、いい若者の意見をキャッチすることができる。地域のことを学校で学んでいるからだと確信している。たいへん良いことだ。

一方で、多様化で教育は難しいと実感している中で、こんなにすばらしくまとめられていることに感心している。

厚坊委員：放課後子ども教室の充実で、成果指標24回に対し、9回の開

催ということだが、24回が多すぎるのか、9回が少なすぎるのか、どう思うか。

西本課長：24という数字はハードルが高いと思っている。しらかべ学遊館の先生方も一生懸命企画をし、9回でもボリュームがあると思っている。回数ではなく内容であると考えているので、評価としてはCであるが、内容としては先生方に頑張ってもらっている。評価については、見直しができないかと思っている。

厚坊委員：無理な回数ではなく、達成しやすい目標、数値とした方がよいのではないか。成果指標を検討した方がよいのではないか。途中で変えることはできないのか。

室田部長：設定時、1校2回と設定したものであるが、どうしても子どもが集まりやすい学校で開催するようになる。先生方には、一生懸命にやっていただいているが、最初の設定が実態に応じた形となるように次の設定はした方がよいと考える。

厚坊委員：学校司書の配置が、成果指標14に対してずっと7できている。評価としてはCであるが、今後増やしていくのか、この状態で当面いくのか。予算的にどうか。

大田課長：学校の規模があり、現状として1人の方に複数の学校に行っている。今後も引き続き、同じ人数での配置を予定している。

この他に質疑等はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり承認された。

②議案第23号 令和8年度柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申方針について

教育長は事務局に説明を求め、大田課長から以下の説明があった。

山口県教育委員会に対する柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申については、柳井市教育の充実発展と活性化をめざし、以下の5項目が十分達成できるよう、校長の具申等を勘案し、適材適所の配置の原則に立って厳正に人事の刷新を行い、学校の活性化を図る。

- 1 全市的な視野に立って、学校間等の適正な人事交流を推進する。
また、特別支援教育の充実発展を図るための適切な人事交流に努める。
- 2 各学校の教職員については、専門性、現任校の勤務年数及び各学校の職員構成等を踏まえ、適切な配置を進める。
なお、同一校勤務が、小・中学校においては7年を超える者については、原則として異動を行う。
- 3 新規採用者については、学校や地域の状況等を踏まえ、計画的な配置を行う。特に、教員については、実践的指導力を高めることができるように配置を行う。
- 4 広域的な視野に立ち、他市町との教育委員会との連携を図り、活性化の

ための適正な人事交流に努める。

- 5 校長、教頭、事務局等の人事については、学校の課題を積極的に解決することのできる人材の配置に努める。

管理職の採用・昇任に当たっては、多様な教職経験を有する者で、教育目標の実現に積極的に取り組み、活力ある学校運営を行うとともに、教職員の資質能力の向上のために指導力を発揮することができる人材を選任する。

主な質疑応答は以下のとおり。

厚坊委員：今年の定年退職者は、例年より多いのか。

大田課長：2年毎に定年延長となっており、今年度末は定年退職者となる方はおられない。辞められるとすれば、60歳で定年前退職という形で辞められる方はおられるかもしれないが、60歳にあたる方は非常に少ない。

厚坊委員：大量退職時代は緩んできたのか。

大田課長：57～58歳の年齢層は多いが、その先は少なくなっていく。

厚坊委員：新規採用者は増えていくのか。

大田課長：新規採用者については、頭打ちになっていて、小学校で言えば200人を超えていたが、今年度は170人台であり、今後は徐々に減っていくと思われる。

この他に質疑等はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり承認された。

(4) 協議会

教育長から、暫時、協議会とする宣言があった。

(午後2時05分 協議会)

(午後2時15分 再開)

(5) 閉会

教育長から、教育委員会会議の閉会の宣言があった。

(午後2時15分 閉会)

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教育長 西 元 良 治

署名委員 綿 貫 良 子

署名委員 西 岡 琴 美

調整者 檜垣彰宏